

東日本大震災における (社)岩手県栄養士会の取り組み



(社)岩手県栄養士会

災害対策・復興支援本部

本部長 伊東 碩子

はじめに

昨年、3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の大被害をもたらしました。改めて被害にあわれた多くの皆様のご冥福とお見舞いを申し上げます。

大震災発生時から多くのボランティアが集結し、独自の活動を行ってまいりましたが、(社)岩手県栄養士会(以下栄養士会)もまた同様の活動を行ってまいりました。本日は、本会の活動について(社)日本栄養士会(以下日栄)の取り組みも含めてご報告させていただきます。

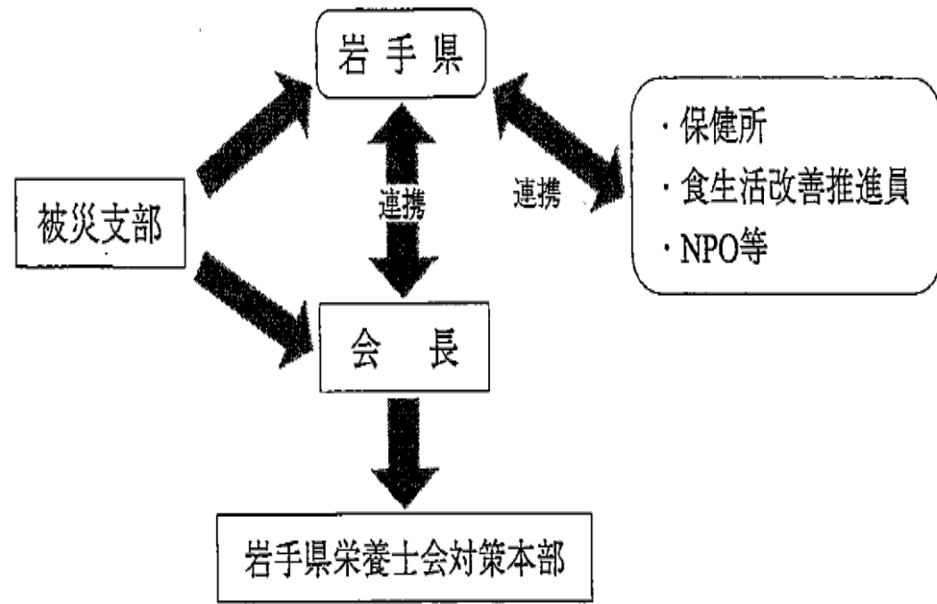
活動経緯と内容

3月11日大震災発生、日栄では15日には災害対策本部を立ち上げた。栄養士会でも準備に入り、25日には正式に対策本部を立ち上げた。

立ち上げまでの活動

- 支援時のマニュアル作成、相談シートの検討を開始
- 寝袋、ザック等を会員の協力を得て確保

(社)岩手県栄養士会災害対策連絡網



〔本部会議〕

本部長	会長	伊東 碩子	事業部長	長岡 智子
副本部長	副会長	福田 禮子	情報部長	太田代健二
本部員	総務部長	山桑セツ子	地栄協議会長	高橋 ツエ
	学術部長	村元 美代		
	栄養CS部長	遠藤 束子		
	地栄協	鈴木 典子		
	事務局	菅原 香織、照井 直恵		

〔盛岡支部長〕	田頭 朋実	特養 千年苑	〔県北支部長〕	久慈孝子
〔県央支部長〕	鈴木 京子		〔県南支部長〕	田道淑子
〔沿岸支部長〕	中屋 史子	老健ほほえみの里		

※本部長が特に必要と認めた時・・・災害対策現地本部を立ち上げる
(現地本部長、本部員は本部長が指名する)

岩手県栄養士会対策本部 役割分担

【総括】 (本部長・会長) 伊東 碩子 (前会長) 平澤 郁子	【活動調整(物品)】 ◎(本部員・地栄協議会長) 高橋 ツエ (本部員・地栄協) 鈴木 典子
【渉外】 ◎(本部長・会長) 伊東 碩子 (副本部長・副会長) 福田 禮子	【会計・電話受付(緊急時の場合)】 (本部員・事務局) 菅原 香織
【情報収集(会員安否確認)】 ◎(副本部長・副会長) 福田 禮子 (本部員・栄養CS部長) 遠藤 束子	【事務処理】 (本部員・事務局) 照井 直恵 ◎はリーダー
【活動調整(人員)】 ◎(緊急時副本部長・常務理事) 山桑セツ子 (本部員・学術部長) 村元 美代	

栄養士会対策本部の活動

- **3月25日 第1回災害対策会議を開催**
役割分担を決め、緊急災害支援活動について協議、活動開始に向けた被災地のニーズを把握するため先発隊派遣を決定。
会長がそれぞれの振興局・保健所へ派遣趣旨を伝え、了解のもと出動準備にかかる。
派遣先：山田地区2名、大船渡・陸前高田地区3名、釜石・大槌地区3名
派遣日：3月30日

- **3月31日 第2回災害対策会議を開催**
先発隊報告をもとに、派遣場所、派遣会員まで(案)を作成するも、県から『先遣隊を派遣し今後の活動を計画するので、その後に協力を要請するまで活動は待つて欲しい』といわれ保留となる。

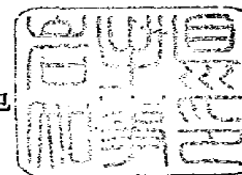
その後、岩手県健康国保課より、宮古市、釜石市、大船渡市の各保健所管内被災地の状況調査のための先遣隊派遣要請、急ぎ人材を確保したが、宮古市は状況不安定のため延期となり、釜石市・大船渡市に4月より3日間の派遣を行った。

町・保健所・福祉施設からの要請

- 先発隊より状況が厳しいと報告された山田町から、山田町長名で支援要請有り。栄養士会活動として4月6～9日迄、延べ9名が本格的な支援活動の取り組みをスタートした。
- 同じく、先発隊が調査に入った大船渡保健所からの要請により、4月11日より延べ7名が栄養士会活動として出動した。
- 4月12日には、陸前高田市の福祉施設から施設内避難者の自立支援のための支援要請も入り、16日まで延べ18名が支援に入った。

社団法人岩手県栄養士会長 様

岩手県知事 達増拓也



県からの派遣依頼文書

平成 23 年東北地方太平洋沖地震及び津波による被災地における
食生活・栄養支援活動への協力について（依頼）

健康づくり事業の実施につきましては、日頃から格別のご協力を賜り感謝申し上げます。

また、被災地における食生活・栄養状況把握のための栄養士先遣隊の派遣につきましても、ご協力いただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、被害が甚大な沿岸部の被災地における食生活・栄養支援活動を実施するに当たり、行政栄養士のみでは対応が難しいことから、貴会からも継続した栄養士の派遣をお願いしたいと存じますので、特段のご協力をお願い申し上げます。

記

1 派遣期間

派遣開始日から避難所数・規模の縮小もしくは閉鎖等に伴い派遣を要しなくなるまでの当分の間

2 派遣対象保健所

岩手県大船渡保健所、岩手県釜石保健所、岩手県宮古保健所、
岩手県久慈保健所

3 主な活動内容

- (1) 避難所等における食生活・栄養相談
- (2) 被災者の栄養確保のための食事提供部門の支援
- (3) 個別対応が必要な被災者への栄養相談等

4 その他

- (1) 栄養士派遣に要する報償費及び旅費は、当県で負担いたします。
- (2) できるだけ、1回の派遣につき4日間(3泊4日)以上の継続した支援活動をお願いします。
- (3) 可能な限り自動車を準備いただくようお願いします。

【担当】

健康国保課 健康予防担当（藤村主任主査、岩山主査）
電話 019-629-5468 FAX 019-629-5474

社団法人岩手県栄養士会長 様

岩手県保健福祉部健康国保課総括課長

平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波による被災地への栄養士派遣について
被災地における食生活・栄養状況把握のための栄養士先遣隊の派遣につきましては、格別のご配慮
をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、平成23年4月22日付け健第141号でお願いしておりました栄養士の派遣について、次
のとおりとしたいので、よろしく願いいたします。

記

1 派遣計画書の提出について

原則的に、継続して、大船渡、釜石、宮古保健所に各2チーム(3名/1チーム)を派遣(3泊4日)し、久慈
保健所には1チーム(3名)を派遣(1泊2日)願います。

なお、必要な人員が確保できない場合は、可能な範囲で派遣願います。

また、概ね2週間分程度の派遣計画を別紙1によりとりまとめ、当該派遣開始1週間前までに健康国保課
あて提出願います。

2 食生活・栄養支援活動について

食生活・栄養支援活動の実施にあたっては、沿岸被災地の保健所及び市町村と事前に十分に打ち合わせ
の上、現地の状況に応じた活動を実施願います。

また、活動実施後は、随時、ミーティング等により情報提供・申し送りを行うよう願います。

3 派遣実施報告書の提出

活動終了後速やかに、別紙2により派遣実施報告書を当課あて提出願います。

完了確認後、各栄養士の指定口座に報償費及び旅費をお支払いいたします。

【担当】

健康予防担当 岩山
電話019-629-5468

岩手県食生活・栄養支援活動の実際

- 派遣は、日栄ボランティアも加えて、対応した。
- 9時、派遣保健所にて、ミーティング、指示を受け活動開始、ペアでの行動が原則
- 3時半から4時に保健所に帰庁、報告会に参加、申し送り等行う
- 現地での活動記録を記載・提出解散
- 栄養士会活動報告書の作成、FAXにて送信報告

具体的な活動内容

- 8月までは避難所での食事状況調査、炊き出し支援・衛生管理指導、支援物資の仕分けと管理指導と必要に応じて個人指導等が主な活動であった。
- 9月からは、栄養士会会員だけで仮設住宅入居者の個別面談を行い、食状況、生活状況等で困っていること、問題など確認し、栄養指導の必要な方への指導を実施した。また、食環境や食事状況調査の実施と支援物資のサプリメントの配布や調理助言、高齢者や独居者への傾聴を心がけた。

活 動 概 要

1. 一自治体からの支援要請からはじまり、県からの派遣要請を受けての食生活・栄養支援に、会員の協力で10月まで継続 参加することができた。
2. 11月からは、釜石・久慈保健所管内で月2～3回、仮設住宅等入居者を対象に、集会所などでの昼食会や講座などの活動に参加している。
3. 24年1月からは、山田町において月3～4回高齢・独居者等の食生活支援活動に参加している。

支援活動栄養士の状況一覧

表-1 (社) 岩手県栄養士会派遣活動 延べ人数

	行政	病院	福祉	地域	学校	研究	計
H23. 3月～12月		13	6	31	2	28	80

表 - 2 岩手県食生活・栄養支援活動状況一覧 (月別・協議会別・延べ人員 H24. 3. 22 現在)

	行政	病院	福祉	地域	学校	研究	計
H23. 4月 ～H24. 3月	2	121	56	228	6	50	463

遠野拠点の状況

- 派遣栄養士数

- (1) 日本栄養士会 実人員107人延べ312人

- (2) 岩手県栄養士会(拠点経由者)延べ 94人

- (3) 市町別派遣延べ人数

- 陸前高田市13人、大船渡市89人

- 釜石市・大槌町、210人、山田町 91人

- 遠野市 3人

- 合計 406人

- 派遣栄養士都道府県数 27

- 拠点宿泊利用者数 397人

拠点活動期間(平成23年5月1日～8月31日)

- 5月1日 活動拠点を設置。(社)日本栄養士会長他2名来所
遠野市長に挨拶。
- 5月9 拠点の環境整備
～13日 (電気・ガス・水道の契約・室内やトイレ清掃)
- 5月14 拠点事務所の整備、のぼり旗の設置
～15日 (綾織駅～拠点までの道案内用、国道238号の拠点入口)
- 5月15日 日栄派遣ボランティア2人拠点到着。
活動オリエンテーションを受け、宿泊する。
- 5月16日 被災地に出向き、活動開始。
- 8月13 拠点事務所夏休み(被災地お盆のため)
～20日
- 8月30日 被災地での活動終了。
- 8月31日 拠点閉鎖のための清掃など。遠野市沿岸被災地後方支
援室に挨拶。午後閉鎖

日栄ボランティアの活動風景

JDA
東日本大震災
支援
(社)日本栄養士会
岩手遠野拠点



支援活動参加者の感想 (物資の管理について…)

- 物資の管理に栄養士の配置が必要と感じた
- 必要物資が必要としている避難所に届くネットワークづくりが必要

支援活動参加者の感想（食と栄養に関して…）

- 早期に栄養調査が行われた地域では「非常時だからバランス食は作れない。それしか食べるものがない」との理由から活動に対しての拒絶反応があり、献立作成に苦慮した。
- 今回のような、非常時に行政として、適正に専門職を配置できるような体制づくりが必要と感じた。食生活改善推進員が活躍している避難所は、物資が不足する中で栄養のバランスに配慮した献立を工夫している。
- 避難所においては、集団調理に調理師の要請も必要と感じた。
- 炊き出しで一緒に作ることは、自分の食は自分であるという思いが、食の自立への一歩となり、さらに緊張がほぐれ心のケアにもなっていると感じた。

支援活動参加者の感想(課題点について…)

- 支援したい方と被災地のニーズがなかなか合わない。
- 行政との連携がスムーズに行っていないように感じられた。
- 土日なら活動しやすいが、受け入れる行政側が休みのため、平日だけの活動要請となり、支援するために年次休暇をとったり、振り替え休暇を利用したことを行政では知っているだろうか。
- 複数の被災地で活動してみて、書式や様式、方法に相違があった。
- 被災地での受け入れ体制が整っていないため、受け入れられる支援は多くない。

【現在の活動内容】

仮設での生活がもたらす問題点が多く聞かれるようになり、新たな人間関係、コミュニティ作りのための(社)日本栄養士会の復興支援活動『食を通じた心とからだの健康づくり教室』が10月からスタートした。

表 - 3 食を通じた心とからだの健康教室「ふれあい昼食会」開催状況 (24年3月現在)

開催地区	開催回数	活動会員数	参加者
住田 (高齢者対象)	5回	16名	171名
住田 (乳幼児対象)	5回	19名	98名
釜石	5回	9名	58名
盛岡	2回	14名	33名
計	17回	58名	360名

今後の活動内容

1. 食を通じた心とからだの健康づくり教室の
拡大開催
2. 支援活動者からの提案を受けての体制づくり
3. 日栄(JDA-DAT)との連携体制の確立
4. 県との連携体制の確立

ご清聴ありがとうございました



奇跡の一本松
長男
ノビレ

復興の芽は
確実に
育っています